

東日本大震災が教えてくれたこと (仙台市での課題と対策)



1. 津波等による多くの犠牲者・被害の発生

東日本大震災の概要

市内の被害状況

◆人的被害(平成25年9月30日現在)

	仙台市内で見つかった方	
		うち仙台市民
死者	908名	813名
行方不明者	30名	
負傷者	2,275名	

※仙台市民でお亡くなりになられた方 987名
(仙台市外で死亡が確認された仙台市民 174名)

◆建物被害(平成25年9月8日現在)

	仙台市内
全壊	30,034棟
大規模半壊	27,016棟
半壊	82,593棟
一部損壊	116,046棟

◆市内被害額の概要(平成24年1月29日現在)

◎被害推計額 約1兆3,684億円

市有施設関係	約 3,270億円
その他公共施設	約 1,452億円
住宅・宅地	約 6,086億円
商工業関係	約 2,147億円
農林水産業関係	約 729億円
(1) 農業関連: 約721億円	
(2) 林業関連: 約0.7億円	
(3) 漁業関連: 約 8億円	



宮城野区蒲生の様子

若林区荒浜地区の津波の様子

2. 食料やエネルギー不足、帰宅困難者の発生



インフラ(電気・水道・ガスなど)
の停止



ガソリン・灯油・重油などの燃料
不足



帰宅困難者による避難者
の増加(JR仙台駅)



商店の被災、流通の停止による
食料不足(市内のスーパー)

3. 避難所運営の混乱



避難所(榴岡小学校)の様子

	避難所閉鎖時期
青葉区	6月25日
宮城野区	7月31日
若林区	7月24日
太白区	7月9日
泉区	7月17日

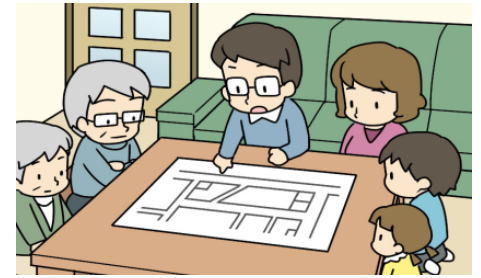
4. 市民一人ひとりによる減災

1 津波に対する備えの充実

- ① 日頃からの備え 避難場所や避難経路を確認・「津波からの避難の手引き」
- ② 情報伝達体制の整備 「津波情報伝達システム」や「緊急速報メール」等による津波情報の多重化
- ③ 避難施設の確保 津波避難タワー、津波避難ビルの整備
- ④ 多重防御 海岸堤防、かさ上げ道路、避難道路等

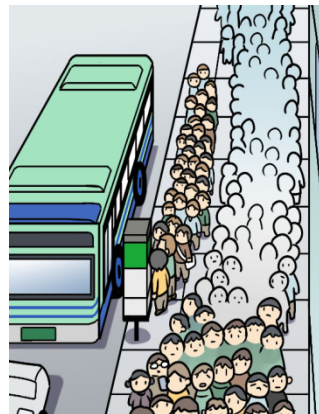
2 家庭などでの備え

- ① 地震の揺れへの備え・・・耐震補強,家具転倒防止 等
- ② ライフライン供給停止への備え
- ③ 食料・生活必需品の確保・・・1週間分程度の備え



3 帰宅困難者対策

- ① 一斉帰宅の抑制
- ② 一時滞在施設・場所の確保
- ③ 徒歩帰宅の支援



4. 市民一人ひとりによる減災

4 「防災・減災」を学ぶ・伝える

- ① 学校や市民センターで知識を習得
- ② 危険箇所の把握
- ③ 実践的な防災訓練(津波避難、避難所運営)



5 避難所運営の見直し

- ① 指定避難所、補助避難所、地区避難施設の位置付け
- ② 地域団体、施設管理者、避難所担当職員、避難者の役割分担



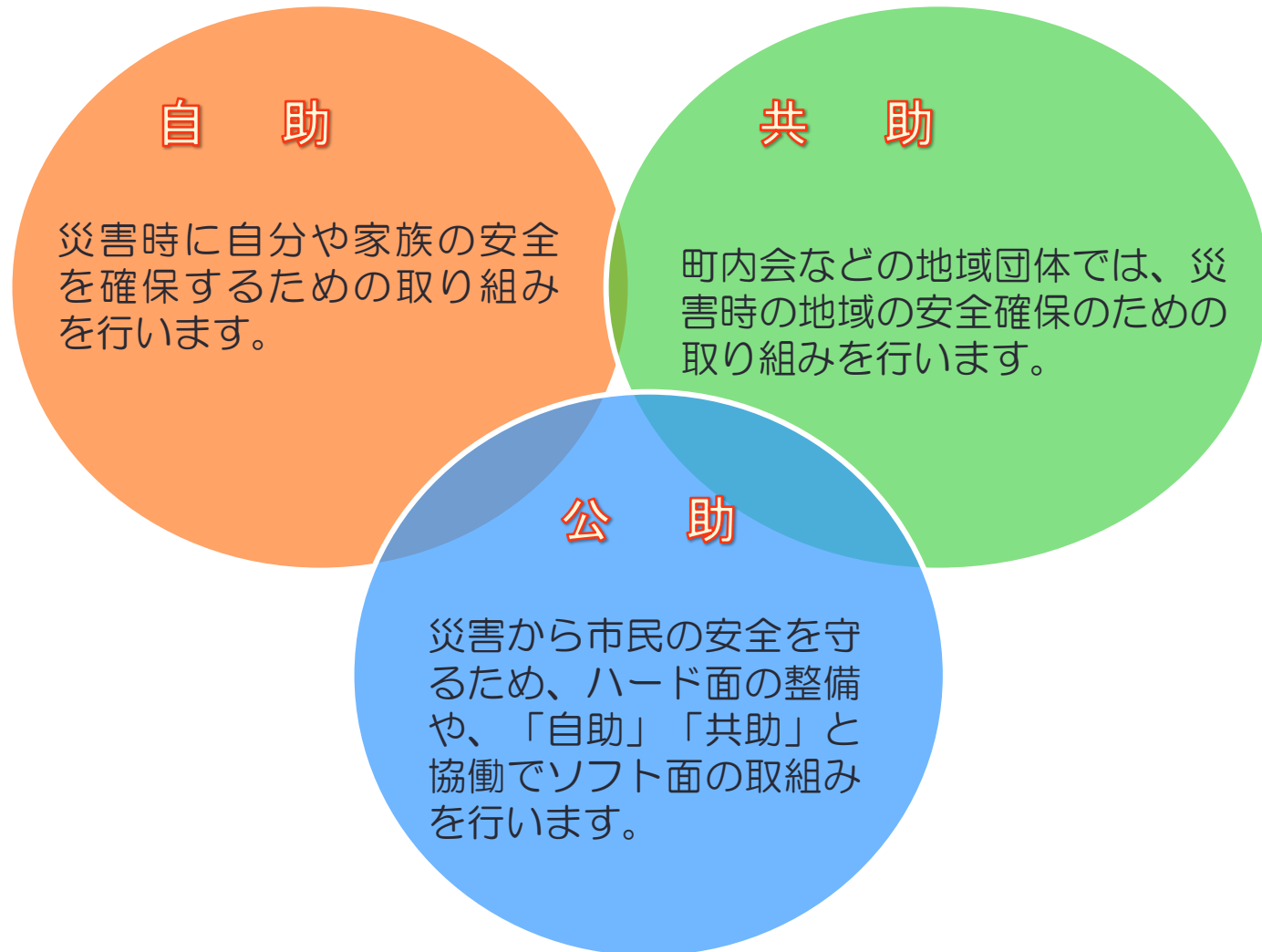
6 住民ネットワークで地域を守る

- ① 自主防災活動、地域防災リーダーの育成
- ② マンション防災対策強化、企業の防災対策の強化を明記
- ③ 地域団体等の活動、災害時要援護者への取り組み



5. 連携

「自助・共助」と「公助」の協働による減災を目指して



5. 連携

横断的連携による補完と相乗効果により大規模災害時のリスク軽減を図る。

I. 地域内での連携

1. 「地域防災リーダー」の養成

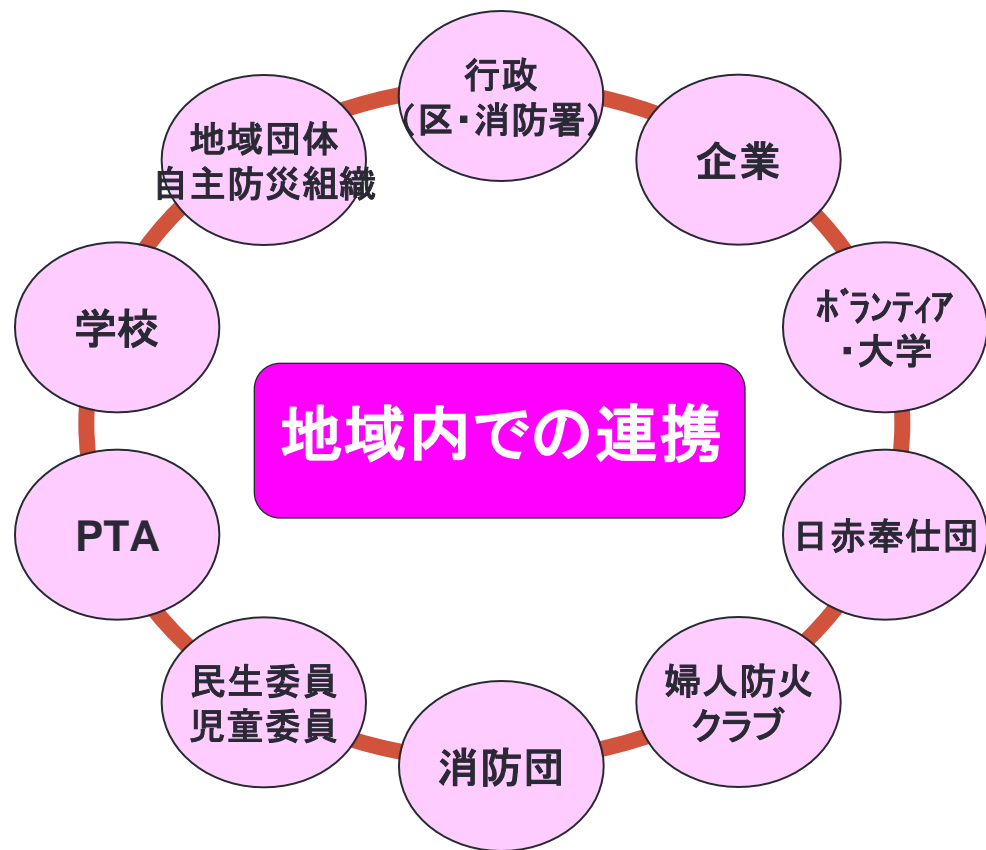
- ・自主防災組織の活動を促進する

2. 防災教育の推進

- ・将来の防災人を育てる新たな防災教育

3. 大学、NPO、ボランティアとの連携

- ・長所を活かして互いに補い合う



Ⅱ. 広域連携

1. 大都市間等の災害時相互応援協定

- ・人や物資の支援体制の強化

2. 法律に基づく消防の緊急援助隊派遣制度

- ・都道府県隊でのカウンターパート

3. 業界等との協定による復旧体制

- ・がれきの撤去や道路啓開など専門的な分野



ともに、前へ 仙台

Moving Forward As One
SENDAI